

謝 辞

本論文作成にあたり、主査である早稲田大学教育・総合科学学術院教授の長島啓記先生には、常に温かいご指導とご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。数年前、長年勤めた教職を辞し、大学院に進学することを決めた私でしたが、入学手続きを前にして、研究テーマだけでなく研究生活そのものに不安や迷いを感じ、長島先生が当時ご勤務されていた静岡の大学に相談に伺いました。その際に先生からは研究の後押しとなる助言と励ましのことをたくさんいただきました。そして、早稲田大学大学院では修士課程から博士課程まで先生のご指導を受けましたが、文献講読から資料の収集、現地調査の方法など研究のあらゆることを細かく教えていただくとともに、論文の一字一句を丁寧に添削していただき、研究に対して真摯に取り組むことの大切さを学びました。さらに、ご自分の考えを決して人に押し付けず、本人の意向を最大限尊重し、院生一人ひとりの自主性と自律性を重視して指導される先生の姿からは、教育者としても多くのことを教えられました。

また、本論文の副査をお引き受けくださいました、早稲田大学教育・総合科学学術院教授の前田耕司先生、日本語教育研究科教授の宮崎里司先生、大阪教育大学教職教育研究開発センター教授の富田福代先生にも心から感謝申し上げます。前田先生には修士課程の時から授業や学会等で多くのご教授をいただき、修士論文もご指導いただきました。宮崎先生には大学院入学前から一般社会人として授業に参加させていただいており、早稲田大学で研究を始めるきっかけを作ってくださいました。入学後も先生の授業には継続して参加し、宮崎研究室で実施されたオーストラリア調査にも同行させていただきました。富田先生には、ご自身もご公務や海外調査等でお忙しい中にありながら、教師教育研究の専門家として貴重なご意見をたくさん賜りました。

早稲田大学では他にも多くの先生方にご指導とご支援をいただきました。日本語教育研究科教授の川上郁雄先生には、授業その他で度々ご指導をいただくとともに、オーストラリア調査でも大変お世話になり、本研究の下地となる貴重な情報を入手する機会をいただきました。法学部教授の澤田敬司先生には学部の授業や自主ゼミで幅広い勉強をさせていただき、書籍の執筆にも携わらせていただきました。なお、研究を進める中では挫折や葛藤を味わうことも少なくありませんでしたが、キャンパスで出会うたびに一院生の私に心温まる励ましの言葉をかけてくださった先生方がたくさんおられたことには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、調査のために度々訪れたオーストラリアでは、大学や学校、教育関係機関、滞在先を提供してくださったご家庭など、数えきれないほどの方にお世話になりました。そして、共に学び、若い感性で有意義な意見をたくさん提供してくれた長島ゼミの院生仲間など、ここにお名前を記すことができない方々と、私の研究を黙って見守ってくれた家族にも心から感謝いたします。

本柳とみ子